

## 事業の背景・目的

出水ツルの越冬地は、県内でも有数の水田地帯であると同時に、毎年10月から12月にかけて1万羽以上のナベヅルやマナヅルが渡来し、3月頃まで過ごす国内最大のツルの越冬地であり、世界的に貴重な自然環境であることから、ラムサール条約湿地に登録されている。しかしながら多くの野鳥が集まることによる農業や漁業被害の発生、高病原性鳥インフルエンザウイルス等の侵入リスクの高まり、地元を訪れる観光客やカメラマンの行動が農作業に支障をきたすといった事態が起こっている。本事業では出水ツルの越冬地における生物多様性の保全と、そこに暮らす人々との共生を目的に官民一体となり利活用計画を策定し、様々な問題を解決する事業を展開することで、環境保全と地域振興の両立を図ることを目的とする。

## 事業の内容

### 事業① 協議会等の開催

農業商工団体、地元自治会、小中学校の関係者など行政だけでなく様々な団体や多くの市民の方々に構成する、協議会を3回、部会を5回開催することで多くの意見が計画に反映することができた。

協議会委員：25名  
部会委員：24名  
特別委員：5名



### 事業② 利活用計画の策定

協議会や部会での意見を基に、様々な問題を解決し環境保全と地域振興を図るための指針となる、「出水市ラムサール条約湿地保全・利活用計画」を作成した。

### 事業③ シンポジウムの開催

湿地の保全と利活用を考えるシンポジウムを令和4年1月22日に開催した。



## 得られた成果

- ①協議会の開催：農業商工関係者、地元住民など、行政だけでなく官民一体となり様々な問題を提起することで、環境保全と地域振興の両立を図るための、解決方法を協議することができた。
- ②利活用計画の策定：問題を解決し環境保全と地域振興を図るための指針となる、「出水市ラムサール条約湿地保全・利活用計画」を作成することができた。  
本計画は令和7年度までの4年間を対象としていることから、今後、事業の進捗状況を管理しながら次期計画の策定についても検討を行う。
- ③シンポジウムの開催：令和4年1月22日に市民70名が参加したラムサール条約登録湿地「出水ツルの越冬地」の保全と利活用を考えるシンポジウムを開催し、登録地の保全・利活用に対する機運の醸成を図ることができたとともに、2月2日の世界湿地の日のイベントとしても開催することができ、湿地の重要性の周知も図ることができた。